

第17回 ながおか 映画祭

17th
nagaoka
film festival

アジアからつながる。We Love 映画

東日本大震災 避難者 被災者 無料(全プログラム)
●事前に主催者にお問合せ下さい。●長野県北部地震被災者も無料。



ボランティア募集!
お問い合わせ・お申し込みは
0258-33-1231

チケット発売中

1回券で1作品がご覧になれます。
前売券
1回券.....900円
3回券...2,500円
5回券...3,800円
(当日券は1回券1,000円)
●小・中学生無料
●学生等500円(1回券。高校生、大学生、専門学校生、障害・療育手帳をお持ちの方と介助者)

上映スケジュール表

2012年 9月17日(月・祝)~23日(日)

上映会場: **長岡リリックホール** 〒940-2108 長岡市千秋3丁目1356番地6
TEL 0258-29-7711

主催・お問い合わせ先: **コミュニティシネマ長岡**

〒940-0066 長岡市東坂之上町2丁目3-3 雑本堂古書店内 TEL.0258-33-1231
Blog <http://cinemanagaoka.blog.fc2.com/>

映画ファンの皆様へ

このたび「市民映画館をつくる会」の活動を「コミュニティシネマ長岡」に改組し活動をはじめました。第2章のスタートです。街に市民映画館という「箱」をつくられませんが市民映画館という「場」をつくることはできました。一人ひとりのこのところの中に市民映画館はあるのかも知れません。今後はより親しみが持たれる活動をしたと思います。応援して頂ける仲間を募集中です。

挨拶

あなたは、「ながおか映画祭」を知っていますか。もし、知っているならば今年は今までとはまた違った映画祭を楽しめることでしょう。
今年の映画祭は9月17日アオーレ長岡にて「世界の食と文化を楽しもう! まるごとtheワールド」から始まり、長岡やアジアを存分に味わえるように新たな取組を行います。その中には、私たち「附属長岡中学校社会創造科」がプロデュースした企画もあります。知っている人も知らない人もぜひ「ながおか映画祭」に足を運んで映画の魅力を感じてみませんか。
附属長岡中学校社会創造科 生徒

主催/ **コミュニティシネマ長岡**
TEL 0258-33-1231

共催/長岡市/(財)長岡市国際交流協会
協力/シネ・ウィンド
(財)新潟県勤労者福祉厚生財団 2012「NPO等助成事業」
プレイガイド/
長岡市: 文信堂長岡店、イオン長岡店、パリス、ラ・ポントーン、キャラメル・ママ、西時計店、リリックホール、長岡市立劇場、雑本堂古書店
新潟市: シネ・ウィンド
魚沼市: ヘアショップ朝日



音声アシストのご案内
視覚障害者の方のために音声アシストをご用意します。ご利用の方は9月21日(金)までにお問い合わせ先までお申し込み下さい。台数に限りがありますのでお早めどうぞ。
対象作品: 9月23日(日)中学生プロデュースによる親子上映会 ■純子はご機嫌ななめ(日本) ■ネコ魔女のキボラ(日本)の2本です。 協力:長岡音声アシストの会

ながおか映画祭 ボランティア募集!

ボランティアご希望の方は

1 メールでのお申し込み方法

件名に「映画祭ボランティア希望」と書いて、おところ・お名前・TEL・職業・年齢・得意分野などを書いて送信して下さい。
hirokami.sekiyaarchi@yacht.ocn.ne.jp



2 電話でのお質問・お申し込み方法

雑本堂古書店 TEL.0258-33-1231 (長岡市東坂之上町2丁目3-3)へご連絡下さい。

9月17日(月・祝) 上映スケジュール

ながおか映画祭 & まるごと生活情報 Presents 「世界の食と文化を楽しもう! まるごとtheワールド」
平成24年9月17日(月・祝)午前10:00~午後4:00 アオーレ長岡(ナカドマ)にて開催。
主催:コミュニティシネマ長岡、まるごと生活情報 **入場無料**

11:00
~13:30
(終了予定)

オープニング
上映

9/17
①

アノソラノアオ (日本 114分)



DATA 114分/カラー/ステレオ/ビスタサイズ/出演:中山麻聖、原野恵、相沢まき、三田村邦彦/監督:ナシモトタオ/脚本:ナシモトタオ、竹内勇輔/支線:はばけ島実行委員会/配給:アイエス・フィールド/©2012「アノソラノアオ」製作委員会

STORY
2004年7月13日。あの時ばかりは、止めなかったのか、止められなかったのか...幼い頃、水害で母を亡くした陽介は専門学校で映画を学んでいる。陽介は撮影中、川の事故で仲間が命を落としたことがきっかけで、幼き日の自分と対峙することになる。水害のあったあの日、あの時の自分の幻影を目にして、未だ母の死を受け入れることのできない自分に気づく。水害を、事故を、既に現実のものとして受け止めている父と姉、友人たちとの軋轢の中で孤独感を高めていく陽介は、過去と今の自分を見つめ直すことで心に開いた穴を埋めようとする。ある日突然襲い掛かる親しい人の「不在」に直面した人々が、その現実はどう向き合い、どう受け入れていくのか。また、自分がその立場に置かれたら...新潟県で実際に起きた「平成16年7月新潟・福島豪雨」を物語の背景に据え、2011年の3.11以降、全ての日本人が心に問い詰めたテーマを投げかける。

トークショー ナシモト タオ監督 (30分) ※上映後

プロフィール 1967年生まれ。映像作家。日本映画監督協会。筋肉少女帯「サボテンとパントライン」PV(監督 今岡あきよし)の制作に参加したことをきっかけにフリーの制作進行を経て91年、筋肉少女帯「慕いておやりよドルバッキー」で、ディレクターとなる。並行してJリーグのチームビデオ制作に参加。その後、映画・美術・写真・演劇と表現の枠にとらわれず活動をしている。現在は、自らの表現活動と並行して国際映像メディア専門学校等で講師として後進の育成も行っている。



13:50
~15:30
(終了予定)

9/17
②

オープニングコンサート ロマンダムール (15分)

第3回の映画祭より毎年開会式を盛り上げてもらう音楽ユニット。作詞作曲・ボーカルの神保幸弘を中心に長岡で活動。「ロマンダムール」の意味はフランス語で「恋愛小説」。愛慕との仲睦まじい姿がよく目撃されている。



冬のアルパカ (日本 30分)



DATA 30分/HD/ながおか映画祭スカラシップ作品/出演:仁後亜由美、伊藤公一、大迫一平、鈴木真君、ほりかわひろき、朝倉亮子、星野和之、大谷哲也(バックスクリーン)、田村幸一、宇野祥平 他

STORY
雪深い山里。都子は一人、アルパカ牧場で働いている。
豪雪のため、冬のアルパカ牧場には、お客は誰も来ない。
春はまだ遠く、借金だけが増えていく。
都子は借金返済のため、働き続けるのだが...



壁女 (日本 17分)



DATA 17分/HD 長岡インデーズムービーコンペティション グランプリ/出演:仁後亜由美、朝倉亮子、飯塚真生、伊藤公一 他

STORY
与田仁美26歳。独身。趣味は壁に張り付く事。ゴミだらけの部屋に住み、職場では上司に怒られ、何とも冴えない日々を送っている。そんな与田が職場に来る配送屋の男性に恋をする。恋愛下手の与田が繰り広げる恋の物語。

トークショー 仁後亜由美(女優) (40分) ※上映後

メッセージ from 仁後亜由美様

「冬のアルパカ」は長岡映画祭で原田裕司監督の「壁女」を上映して頂いた時に、実行委員の菅野さんに、「スカラシップで撮りませんか?」とお誘い頂き、原田監督が作った作品です。本作の見所を個人的な意見で書かせて頂くと、まずやっぱりアルパカです。キャラクターのシールやぬいぐるみでアルパカは沢山見たことあるのですが、私は今回の撮影で実物を初めて見ました。想像していたより懐いてくれませんでした。噛まれても痛くないので、沢山触れました。あと、山古志の雪景色がとても素敵でした。すぐにこけてしまう程雪が高く積もっていて、駅の近くでサラリーマンの人達が飲み廻りに雪玉を投げつけてあつてる面は衝撃的で、ほんとにしました。あと、自分がシリアスに走り去るシーンで、引き戸の隙間を体が通り抜けてる感じが、何回見ても爆笑します(私だけ)。撮影中、共演者の伊藤くんが「(今の)大丈夫ですか?」と聞いて、監督の原田さんは「大丈夫」と言ってOKサインになったのですが、皆さんもよろしかったら、オッケーかオッケーじゃないかジョージしてみてもいい。撮影について、これを作るにあたって、私は監督ではないので、知らない所で助けてくれた方が多く沢山いるのだと思うのですが、映画祭実行委員の方々、長岡造形大生の皆さんとビューラー先生、料理を作ってくれた桜井さんや近所の奥様方、沢山の長岡の方にお世話になりました。自主映画という規模の中で、自然豊かな山古志という場所で映画が撮れたのは協力して下さった皆様のおかげです。ありがとうございました。

最後に、私より監督の原田さんの方が色々あると思うのですが、私はこの作品が好きです。作っていく過程で、大丈夫だろうとか、お客さんに楽しんでもらえるだろうとか、何度も不安になりましたが、完成を映画館で見た時、できてよかったなあと思いました。作ったのは原田さんだけ。沢山の方に見て頂けたらありがたいです。

16:00
~18:15
(終了予定)

9/17
③

王朝の陰謀 判事ディーと人体発火怪奇事件 (中国・香港 123分)



DATA 123分/カラー/シネマスコープ/ドルビー/35mm
監督:ツイ・ハーク/脚本:チャン・チャウ/撮影:チャン・チン、バーキョー・チャン/アクション監督:サム・ハン/美術監督:ジェームス・チュウ/衣装デザイン:ブルース・ユウ/編集:ヤウ・チー・ワイ/出演:アンディ・ラウ、リー・ピン・ビン、提供:配給:ツイ/配給協力:太華米タイムズ/2011年映画トップ10において「アーティスト」「ヒューゴの不思議な発明」に次いで、第3位に堂々ランクイン!
©2010 Huayi Brothers Media Corporation Huayi Brothers International Ltd. All Rights Reserved.

留学生の皆さんによる母国紹介 (10分) ※上映前
STORY
歴史上実在した判事ディー・レンチェが、女帝誕生の裏に渦巻く謀略に挑む! 300年間に渡って繁栄した中国・唐の時代。中国史上唯一の女帝の即位目前に、不可思議な難事件が勃発する。それは人体が突如発火し、真っ黒な灰と骸骨だけを残して焼くつくされる。というものの。しかも、7人の犠牲者はすべて政權を司る重要人物だった...その謎を解明するため、一人の男が任命された。彼の名は、判事ディー・レンチェ。類いまれな知性の持ち主で、武術の達人でもある彼は、相棒となる司法官とともに捜査を開始する...香港アカデミー賞13部門ノミネート 最優秀男優賞・主演女優賞など、全6部門受賞! 国内外で絶賛された「中国版シャーロック・ホームズ」が、ついに日本上陸!! ディー判事とは紀元630年に生まれた実在の人物、狄仁傑。各地の知事を歴任後、中国の歴史上で唯一の女帝である周武后に仕え法務大臣にまでなった。「中国版シャーロック・ホームズ」として欧米で熱烈に支持され、日本でも早川書房から全14冊出版されている。

19:00
~21:00
(終了予定)

9/17
④

長岡造形大学プログラム ③ 「イメージフォーラムフェスティバル2012 ハイライト」(日本 90分)

解説 中島 崇(長岡造形大学講師)トーク(30分) ※上映後

メッセージ from 中島 崇様

イメージフォーラム・フェスティバル(IFF)は1987年に第1回が開催され、今年の5月の開催で通算26回目を数えた。「実験映像」(地震の震度別に崩壊度を検証するような科学的映像とは別のもの)にスポットをあて斬新な映像表現を第一義とした、この分野では日本で最大規模を誇る映画・映像祭である。

当初はなじみの薄かったこの分野も、特にここ数年は日本の映画・映像界には欠く事のできない支持を世界各地から集めている。和田淳の「グレートラビット」が、今年2月のベルリン国際映画祭で短編部門の銀熊賞を受賞したことはその象徴的な出来事だった。短編部門にノミネートされた順天性の強い映画のなかで、ユーモアセンスが抜群とはいえず作者の思い入れが強い抽象化された物語の断片を纏ったアニメーション映画が高い評価を得たのは驚きというべきだろう。他の追従を許さない強烈な個性が人の心を揺さぶったのだと私は思う。日本の実験映画を評して、「何でもあり」のオルタナティブ映画の原初的な精神が今も息づく貴重なグループと、かつてイギリスの映画批評家トニー・レインズが指摘したことがあった。

IFFのこの何年かは審美性を追求する傾向が強かったが、今年のIFF、そしてこのながおか映画祭のために選択された「グレートラビット」を含む9作品には、「何でもあり」の姿勢が再び勢いを吹き返してきたという印象が強い。テレビ番組の形式や伝統的な画作りを踏襲した1引1引的に扱った「そげる・たわむ・外に流れる」(三木はるか作品)と「わたしたちは洗車」(旅行がしたい) (関友太郎作品)、劇画調アニメに徹して徴兵制の過去の教訓からいきなりSF的な世界に転じる「へいたいごっこ」(伊藤早耶作品)は、アート映像のお家芸的な美学至上主義から大きく逸脱するものである。と同時に、実験映画が専門的な知識のうへに成り立っているのではなく、私たちが普段接している日常的な事柄に端を発していることに是非とも気づいてほしいと思うのである。



映画「数声」

9月18日 上映スケジュール

11:00
~12:30
(終了予定)
9/18
①

鬼に訊け 宮大工 西岡常一の遺言 (日本 88分)
※映画の内容は9/22 ④ を参照。

13:30
~14:50
(終了予定)
9/18
②

内部被ばくを生き抜く (日本 80分)

15:20
~17:25
(終了予定)
9/18
③

別離 (イラン 123分)

19:00
~20:35
(終了予定)
9/18
④

父の初七日 (台湾 92分)

9月19日 上映スケジュール

11:30
~13:35
(終了予定)
9/19 ①

別離 (イラン 123分) ※映画の内容は9/18 ③ を参照。

14:00
~15:30
(終了予定)
9/19
②

アリ地獄のような街 (バングラデシュ 79分) ●映画解説(10分) ※上映前

16:00
~17:35
(終了予定)
9/19 ③

父の初七日 (台湾 92分) ※映画の内容は9/18 ④ を参照。

19:00
~20:40
(終了予定)
9/19
④

フェルメールの憂鬱 (日本 100分) 特別招待作品

9月20日 上映スケジュール

10:00
~12:35
(終了予定)
9/20
①

百合子、ダスヴィダーニヤ (日本 102分)

14:00
~16:35
(終了予定)
9/20
② (同内容2回上映)

トークショー 浜野佐知監督 (50分) ※上映後
メッセージ from 浜野佐知監督

18:00
~19:30
(終了予定)
9/20
③

長岡造形大学プログラム ①
「Fresh & Sweet : Eye Candies for You」(90分)

9月21日 上映スケジュール

11:00
~12:20
(終了予定)
9/21 ①

内部被ばくを生き抜く (日本 80分) ※映画の内容は9/18 ② を参照。

13:00
~14:30
(終了予定)
9/21
②

冬のアルパカ完成記念～原田裕司監督特集～
冬のアルパカ(日本 30分)
壁女(日本 17分)
コーヒー(日本 20分)

15:00
~17:30
(終了予定)
9/21
③

普通の生活 (日本 90分)

19:00
~21:30
(終了予定)
9/21
④

長岡造形大学プログラム ②
エヌアイディーオービー:造形大学卒の中嶋駿介の作品集 (日本 95分)

9:10
~11:10
(終了予定)
9/22
①

ベンダ・ビリリ〜もう一つのキンシャサの奇跡 (フランス 87分)



DATA 87分 / 1.85 / Dolby SRD
監督:ルノー・バシエ / フランス・ドキュメンタリー / 出演:スタッフ・ベンダ・ビリリ2010 / France / Documentary / 配給:ムヴィオラ・プランクティン ©SCREEN RUNNER
カンヌ国際映画祭を熱狂させた奇跡のドキュメンタリー！
第63回カンヌ国際映画祭＜監督週間＞オープニング作品

STORY

2010年5月。カンヌ映画祭を今年最も熱く興奮させたのは、ハリウッドの有名セレブではなく、コンゴの路上からやって来た、手作り楽器で誰にも真似できない音楽を演奏する車椅子4人と松葉杖1人を含むバンド「スタッフ・ベンダ・ビリリ」だった！数々の困難や挫折を乗り越え、大々的な成功をおさめるまでの5年間を記録したのが、本作「ベンダ・ビリリ」である。ベンダ・ビリリ！その意味は「内面を見よ！」。

映画の始まりは、2004年。コンゴを愛する2人のフランス人映像作家が、ある日、キンシャサの路上で、ビリリの音楽を偶然耳にした。戦争による混乱と貧困のキンシャサで、障害を持ち、家がなく、動物園で眠り、演奏する。ドン底の生活でも音楽は豊かに輝き、メンバーは前向きだった。ビリリに魅了され、アルバム制作とドキュメンタリー映画の制作を決意。数々の困難と挫折を乗り越え、2009年に発売されたアルバムが大ヒット。数か月後には大々的なヨーロッパツアーが実現した。彼らの音楽とパフォーマンスが出会った人すべてに感動を呼び起こしたのである。

市民講座 講師 羽賀友信 (長岡市国際交流センター「地球広場」センター長) (30分) ※上映後

メッセージ from 羽賀友信様

「ベンダ・ビリリ！」はコンゴが舞台の映画です。音楽を通じてアフリカの文化に触れることができます。

ヨーロッパのアフリカ進出は「コンゴ川流域」から始まりました。私たちがアフリカを思うとき「暗黒大陸」というイメージを持ちやすいですが、実際ヨーロッパがアフリカに進出したとき、そこには高度に発達した文明と文化を持った人々が生活していました。「暗黒大陸」とは、産業革命を経たヨーロッパが労働力不足を解消するために実施した奴隷狩りを正当化するために作られた考えです。中世からアフリカには奴隷制度が存在しましたが、これは戦争捕虜等の一時的な身分制度であり、交易のために象牙や奴隷が商品としてアラブの商人を通して世界に輸出されていました。これを更にシステム化して奴隷狩り制度が進められました。これが今日までアフリカの自信と人材不足に繋がっているのです。

またアフリカの文化として部族の価値観が国家を超えることが多くあります。これも部族紛争の大きな要因ですが、ここに先進国の武器が供与されることにより国家紛争にまで拡大していきます。その先には資源を巡る権利争いが大きな問題として横たわります。

映画を通して、世界を深く理解し、本質的な課題がなにかを考えてほしいと思います。



11:30
~13:30
(終了予定)
9/22
②

普通の生活 (日本 90分)

※映画の内容は9/21③を参照。



トークショー
吉田泰三監督
(30分)



13:50
~16:20
(終了予定)
9/22
③

冬のアルパカ (日本 30分)

DATA 30分 / HD / ながおか映画祭スカラシップ作品
/ 出演:仁徳重由美、伊藤公一、大迫一平、鈴木義典、はりかわひろき、新倉亮子、星野和之、大谷哲也 (バックスクリーン)、田村幸一、宇野祥平

本年度受賞作品上映 (90分)

30分以内の自主映画を厳正な審査の上で受賞作を選んで上映します。さらに今年はグランプリ受賞者に長岡での映画撮影を条件に製作費を支援します。

トークショー 原田裕司監督 (30分)

※冬のアルパカ 上映後

メッセージ from 原田裕司監督

最新作「冬のアルパカ」は昨年の長岡アジア映画祭インディーズムービーフェスティバルで自作「壁女」がグランプリを獲得し、そのスカラシップ作品として製作されました。スカラシップ作品と言っても、非常に低予算だったため、長岡造形大学の学生さんたちや長岡の皆様などのたくさんのご協力があった完成した短編映画です。

「冬のアルパカ」はスカラシップ作品という事で、長岡市で撮影をするというのが条件でした。映画祭のスタッフの方から、いろいろなパンフレットを見せて頂き、最も印象に残ったのが山古志のアルパカ牧場でした。新潟にお住まいの方には、山古志のアルパカは有名だとお聞きしましたが、東京に住んでいる自分にとっては、何でアルパカがいるのか？非常に驚きました。アルパカを撮影できる機会はそうそうないぞ！と思い、迷う事なく、撮影の舞台を新潟県長岡市山古志にあるアルパカ牧場と決めました。

撮影は記録的な大雪だった今年2月に行いました。関東育ちの自分にとっては、想像を絶する大雪で、こんな過酷な自然環境の中でも人々が生活している山古志に感動しました。

山古志にある合宿所をベースに予備日を入れ、六日間の撮影でした。毎日、朝早くから夜遅くまでの撮影でしたが、いつもよりスタッフやご協力してくれる方が多かったのも、自分的には大変だったという感じはあまりなく、とても楽しい撮影でした。

物語はというと、雪深い山里にあるアルパカ牧場。その牧場には多額の借金があり、そこで働く主人の郁子が借金返済のため悪戦苦闘するという物語です。

この映画を観て楽しんで頂ければ、本当にうれしいです。よろしくお願ひ致します。



スカラシップ作品
「冬のアルパカ」

16:40
~18:40
(終了予定)
9/22
④

鬼に訊け 宮大工 西岡常一の遺言 (日本 88分)



DATA HD / カラー / 88分
監督:山崎佑次 / 脚本:石橋三郎 / 出演:西岡常一、西岡太郎、石井清司、蓮水浩、安田映良 (監修:西岡常一) / 撮影:多田博平 / 音楽:佐藤一郎 / 製作:「鬼に訊け」製作委員会 / 配給:太秦 ©「鬼に訊け」製作委員会

STORY

「最後の宮大工」西岡常一の姿を捉えたドキュメンタリー。法隆寺の昭和修理、薬師寺の伽藍(がらん)復興に一生を捧げた。彼の仕事に対する考え方や思想を追求することで、日本人が忘れてしまった日本文化と日本人の心の復興を願う。西岡は最晩年に最後の教えを若者達へ授けていた。「千年の檜には千年のいのちがある」「木は鉄より強い」。日本人のいのちの教訓、そして明快な指針。千年先へのいのちを繋いでゆくという途方もない時間の流れがインタビューから浮かび上がってゆく。

トークショー 山崎佑次監督 (30分) 司会:小林三四郎

メッセージ from 山崎佑次監督 「宮大工棟梁 西岡常一の想い出」

棟梁が亡くなって十二年になる。もはや過去の人であり伝説の人である。ふつうなら忘れ去られても不思議ではない。が「鬼に訊け」は全国で異常とも思える動員を記録した。「千年、千五百年の木を使わせてもらうのです。その木の癖を組んで堂や塔を組上げてゆく。それが宮大工の仕事です」「風雪に耐えて立つ。それが建築本来の姿やないですか」「今の人はすぐ金勘定をします。そうやなしにホンマの仕事をやれと。これ以上で金ぐらいの仕事をやれと」。言葉のひとつひとつが今でも鮮明によみがえる。

劇場に詰めかけた人々は、愚直なまでに木のいのちを活かすことに生涯をかけた棟梁の生きざまに心揺すぶられたに違いない。東北を襲った大津波、原発事故、この教訓を生かそうとしない日本政府にノー！と異議を唱える人々に支えられて上映は成功したのだと思う。宮大工棟梁ではなく日本の棟梁になってほしい…と。



19:00
~21:30
(終了予定)
9/22
⑤

SRサイタマノラッパー ロードサイドの逃亡者 (日本 110分)



DATA 110分 / カラー / ビスタ
監督・脚本・編集・入江 悠 / ラインプロデューサー:佐藤圭一郎 / 出演:奥野瑛太、駒木根隆介、水澤紳吾 / 制作プロダクション:アミューズ、ノライズフィルム / 配給:SPOTTED PRODUCTIONS ©2012「SR3」製作委員会

STORY

サイタマ県フクヤ市のHIPHOPグループ「SHO-GUNG」をやめ、上京したラッパーのマイティは、人気ユニット「極悪鬼」の下働きで耐える日々を続けていた。しかし、優勝すればメンバーに入れてやると約束されたラップのフリースタイルバトルで八百長を強いられ、暴行事件を起こし、逃亡の身となってしまう…舞台を栃木に移し、男たちの壮絶な再会と夢の行方が交差する中、波乱のクライマックスを迎える。

トークショー 入江悠監督 (40分) ※上映後

メッセージ from 入江悠監督

先日、新潟市の映画館シネ・ウィンドにて、「SRサイタマノラッパー ロードサイドの逃亡者」の初日舞台挨拶を迎えた際、本作のラインプロデューサーである佐藤圭一郎は満場のお客さんにこう言った。

「この映画はサイタマノラッパーというタイトルではあるけれど、決して「埼玉」の「ラッパー」の話ではありません。これは、「新潟」で「何かを追い求めている人」の話です。ぜひ新潟の皆さんに観てもらいたいです」。

佐藤ラインプロデューサーは新潟出身である。僕と同じ年で、映画の世界に入った時期もほぼ同じだ。彼の舞台挨拶での言葉は不意打ちのように僕の心をついた。たしかに、「SRサイタマノラッパー」は「埼玉」の話ではない。高齢者の方に「ラッパー」は馴染みが薄いかもしれないが、決して彼らのニッチな世界を描くものでもない。この映画は「何かを追い求めている人」や「何かをあきらめたことのある人」を、僕自身の経験を下敷きにして描いたつもりだ。何かをあきらめたことのない人など、この世にはいないだろう。事実、僕自身もたくさんあきらめてきた。いくつかは挑戦したが壁にぶつかってあきらめ、また、あるいは挑戦する前からあきらめたこともある。ただ、それでも僕たちは前に進んでいかなければいけない。何ができるかを暗く模索しながら生きていかなければならない。この映画はそんな単純なことの前に悪戦苦闘する人たちの話である。新潟の皆様にも届くことを心から願っています。

「SR サイタマノラッパー ロードサイドの逃亡者」ながおか映画祭に寄せて

メッセージ from ラインプロデューサー:佐藤圭一郎様
「最後の居場所の、その先」

私は、生まれてから小学校卒業までの12年間を長岡市で過ごした。映画が大好きだった少年時代、と言いたいのが当時長岡に映画館はなかった。映画鑑賞は、父の運転で新潟市まで遠征する一大イベントであり、観たい映画が父と一致しない場合は、その作品のプレゼンテーションが必要だった。こうした映画館との距離感、映画鑑賞への距離感となり、長岡に映画館がなかった90年代の初めは、かえって私と映画との距離を縮めた。中学入学から新潟市に引越し、高校卒業までの6年間は映画を浴びるような環境で過ごした。趣味は読書に直結し、日本映画学校に入学する為上京。卒業すると現場に直行した。現場といっても監督、撮影、照明、録音と、数ある職種の中で、私の役割は制作である。制作とはひとことで言えば撮影の為に環境作り。スタッフ・キャストの食事や給水、車両の手配、交通誘導、現場のゴミ処理までの雑用一切。これらをこなして現場を進行する制作進行。ロケ地を探し、そこが撮影現場として成立するまでのあらゆる手続きを行う制作主任。進行、主任を統括し、監督をはじめ、撮影隊が表現活動に徹する為の最高の環境を作る制作担当。

監督入江悠との出会いは、彼が助監督を務めた最初で最後の作品「バビロン山椒魚」。当時、制作進行の私は、常に「今回が最後」という思いで仕事をしてきた。助監督も制作進行も突き詰めればアシスタント兼。本気で映画を志す者にとって、常に「最後」であるべき居場所には違いない。しかし、邦画バブルと呼ばれた時代も重なり、仕事が尽きることにはなかった。それを「経験」や「成長」と呼んで納得した。明快な大人への行程である。そうやって私が「最後」の居場所でさまよっている07年から08年の間に入江は自主映画を撮った。それが「SRサイタマノラッパー」。日本インディペンデント映画史上に於ける、その記念碑的位置付けには今更言及しない。

2011年、私は制作主任になっていた。仕事の切掛けで再会した入江監督は、シリーズ最新作を、正気を疑う低予算のまま、身の程知らずなスケールで生み出そうとしていた。夢破れた男の焦燥と、映画のアクションに溢れたその物語は、気づけば10年選手の映画職人となった私にとって絶対に譲れない真の野心作だった。若いスタッフの情熱と勢いで突破してきたのが前作。しかし、巨大フェス・シネを有するこの最新作は、大きな実費に加え、明らかに経験と技術を持つプロの力を必要としていた。

長い下積みと共に歩んだ仲間を訪ね歩き、助監督や録音技師など、新たな顔ぶれを揃える。低予算の逆境、それでも身の程知らずなスケールに本気で取り組む仲間が集まった時、希望が見えた。こうして同世代のプロフェッショナルと、前二作からのSRクルーが合流。さらに前二作に共鳴した一般ボランティアスタッフが続々と参加し、「SR3」は、撮影前から、さながら超大作の様相を呈していた。後に先にも二度とないチーム編成による最初で最後の映画作り。

そしてスタッフからロケハン、撮影の全ラインを取り仕切る私の立場はラインプロデューサー。現場責任者が制作主任ならば、その現場をも含むラインの責任者である。その困難や奇跡のひとつひとつは語り尽くせないが、「最後の居場所」をさまよう続けた者にしか出来なかった映画なのは間違いない。これが「SRサイタマノラッパー ロードサイドの逃亡者」と私の物語であり、その続きは映画本編である。身の程知らずにも映画は完成したのだ。本来ならば私の仕事はここで終わる。映画を完成させるまでが仕事だからだ。その出来、不出は公開時の評価を真摯に受け止める。それが私の映画へのスタンスだった。

今年4月14日、「SR3」渋谷シネマシティにて公開。上映館の周囲でチラシを配るスタッフ、キャスト、ボランティアスタッフの姿があった。十分な宣伝費もなく、有名な俳優も出てない。聞いた事もないタイトルのシリーズで、しかも既に三作目。とにかく知ってもらうこと。宣伝の為に上映館の街を駆け回るマイティ。行く先々の街で広がるチラシ配りの連鎖。寒い映画を観て欲しい、知って欲しいという思いが行動になる。「SR3」シリーズにはそれほどの力がある事に私自身が驚いていた。映画はお客さんに映画館で観てもらってはじめて完成といえる。6月23日、新潟シネ・ウィンド公開を前に何かできないだろうか。長岡で、新潟で、映画を渴望していたかつての自分に届けるつもりで宣伝できないだろうか。そんな思いで、マイティと一緒に、ラジオで、テレビで、果敢な宣伝を展開した。ラジオやテレビの露出量ではメジャー映画に負ける。ならば、と街宣車で街行く人々に訴えた。この一連のアクションは、私自身初めての経験であり、映画との関わり方の新たな発見でもあった。私の中で映画を作る事と見せる事がひとつになっていた。こうして「SR3」との出会いと関わりは、私自身に多くの発見と成長をもたらしてきていた。決して健全とは言えない日本映画の制作事情の中で、この映画の存在は希望である。観たい、観せたい、そんな思いの連鎖で作られ、観せる。これほど正しい映画はないではないか。



●中越地震と映画

長岡市在住のコレクター、長谷川浩一さんのコレクションを展示します。映画祭期間中、リリックホールロビーにて。9/17(月・祝)~23(日)

●アジアを知ろう！ぶらり地球旅行 2

今年も市内の大学に在籍する留学生による母国の文化紹介や、アジアや世界の現状を考える市民講座を開催します。ロビーには映画やアジアに関するパネル展も同時開催。皆さんも身近になった世界について気軽に参加を！

●アジアのミニミニブック&シネマトーク (9月22日(土・祝) 上映会場ロビーにて)

JPIC(財団法人出版文化産業振興財団)読書アドバイザーが、映画の話を交えながら、本の紹介をします。お客様が映画を通して出会った世界を、本と出会うことにより、より深めていただくという企画です。映画に関する本だけではなく、上映作品の国で書かれた小説や絵本、長岡在住の映画監督の著書まで、幅広くご紹介いたします。

AM11:30~
PM2:30
フリードリンク
日替わりが人気
夕方5時~はビールで乾杯!!
BADEN-BADEN ビアホール
長岡市東坂之上町1-4-7 TEL0258-33-5098

株式会社
関矢設計事務所
魚沼市並柳182
TEL 025-799-2122
代表取締役
関矢茂信
(一級建築士)

9:30
～11:25
(終了予定)

9/23
①

ハロー！？ゴースト (韓国 111分)



DATA 111分/カラー/35mm/
監督・脚本：キム・ヨンタク/出演：チャ・テヒョン、コ・チャンソク/
提供・配給：フジ/配給協力：太秦/協力：パラマウント・ジャパン

生きていることの幸せを感じられるコメディを作りたい
by キム・ヨンタク監督。
ラスト10分号泣必至！最高のサプライズムービー誕生！！
© 2010 Water n Tree Pictures & Next Entertainment World Inc. All Rights Reserved.

STORY
生きる希望を失ったサンマンは何度も自殺を図るが、なぜかいつもうまくいかない。ある日、運ばれた病院で目覚めたサンマンは、4人の一風変わったゴーストにとり憑かれてしまったから、さあ大変！！彼らを成仏させるため、仕方なく願いごとをかなえてあげることに。そんなとき、病院で出会った看護婦ヨンスにひとめ惚れ。偶然か必然か、ゴーストの願いごとを叶えていくうちに、ヨンスとの距離が近づいていくが…。

"人生の孤独"と"大切な人がそばにいる幸せ"という普遍的なテーマを笑いと感動で描いた本作は、「大笑いしながら、今生きていることへの幸せを感じることができるコメディを作りたい！」というキム・ヨンタク監督のメッセージどおり、人生の愛おしさに気づかせてくれる。たくさん笑って、思い切り泣いて、人生を変える感動がここにある！

11:40
～12:25
(終了予定)

9/23
②

親子上映会 ～附属長岡中学校社会創造科プロデュース～
※視覚障害者のための音声アシスト付上映 (協力：長岡音声アシストの会)

純子はお機嫌ななめ (日本 24分)

無料上映



DATA 24分/制作：Liner Notes/
監督・脚本・製作：谷口 雄一郎

STORY
クラスでモテモテの「純子」。小学4年生の女の子です。そんな純子には好きな人がいます。名前は「努」。そして純子は、自分をアピールするため、努を夏祭りに誘います。しかし、努は純子にある条件をだします。それは「カリスマモデルみたいな格好をしてくるように」で…。

メッセージ from 谷口 雄一郎監督

この作品は群馬県吾妻郡中之条町にて行われる伊勢スタジオ映画祭が主催するシナリオ大賞にて2009年に大賞を頂き、それを映像化した作品です。出演している子供達は中之条町近辺の子供達をオーディションにて選び、出演してもらいました。本作の作成中から意識していたのは、主人公の純子と同世代の子供達が観た時、どう感じるだろうか？ということでした。私は、感性に関して、世代によっての違いというのはありますが、根本的な部分において、年齢は関係ないと思っています。その根本の部分意識した作品作りをしたので、観た子供達、そして御家族の方々がどう感じるのかというのは大変興味があるのです。難しいことを色々書いてしまいましたが、作品自体は何もかまえて観る作品ではありまので、自由に楽しんで観て下さい。最後に今回この様な機会を頂き、映画祭関係者、スタッフ、そして今は中学生になったキャストの子供達(もちろん大人キャストも)に、大変感謝しております。



ネコ魔女のキボラ (日本 20分)



STORY
貧乏なネコ魔女「キボラ」。キボラは魔法学校の特待生として入学するため、毎(ほうき)で空を飛び練習をしていた。そんな時、ロボットの「マックス」と出会う…。她が嫌いなマックスと魔法というキボラ…。矛盾する二人がむかえる結末は、Happy endか、Bad endか…。

メッセージ from 藤原智樹監督

長岡という場所で、再び「ネコ魔女のキボラ」を上映して頂ける機会があるとは思っていませんでした。大変、光栄に思っております。本当にありがとうございます。



12:50
～15:35
(終了予定)

9/23
③

阿賀に生きる (日本 115分)



DATA 155mm/カラー/115分/監督：佐藤真/撮影：小林茂/1992年

STORY
新潟県の大河である阿賀野川。山間の田んぼを守り続ける老夫婦、二百隻以上の川舟を造ってきた舟大工、名人と呼ばれる餅つき職人。みんな団円裏を囲めば季節の川魚や山の幸を前に、唄を歌い川魚の自慢話に花が咲く。しかし、その一方でこの川と暮らす人びとが新潟水俣病の被害者家族であるという現実をつきつける。原発崩壊後、自然を内包した生き方を考える映画として注目されている。

●撮影：村井勇

トークショー 小林茂(映画監督) (50分) ※上映後

メッセージ from 小林茂

「阿賀に生きる」は、過去の映画ではなく、東日本大震災や原発爆発を経験したわれわれが生きていく世界に、ひとすじの光を投げかけているのではないだろうか。いまこそニュープリントでこの映画を見つめなおしたい。

ドキュメンタリー映画監督・「阿賀に生きる」撮影担当：小林茂
新潟水俣病が発生した阿賀野川を舞台にしたドキュメンタリー映画「阿賀に生きる」(佐藤真監督)は、若き衆人集団7人が、3年間の共同生活の中からつむぎだした作品です。映画が完成して、20年。リバイバル上映のために、ニュープリントを作成し、ふたたび全国をまわります。当時としては初めてドキュメンタリー映画の劇場公開でのロングラン。ニヨン国際ドキュメンタリー映画祭で銀賞受賞をはじめ、世界中の映画祭から絶賛されました。昨年の東日本大震災と東電福島第一原発の爆発以後、「阿賀に生きる」は新たな視点をもって見られているように感じます。映画に登場する人々はまさに「自然」を内包した生き方でした。今もたびたび上映され、今は亡き登場人物がよみがえります。撮影スタッフが驚いたのは、豊潤な川の世界でした。鮭、アユ、鯉、毛蟹。人生で一番おいしい魚を食べた3年間でした。そして、川のいのちと人のいのちがつながっている感覚を持つようになりました。川舟で仕事し、川水でご飯を炊いた清らかな大河。それは、自然を征服するという思考からは遠く離れたもので、自然と共生した生き方でした。それゆえ、登場する3組のご夫妻は実直な生き方であり、しっかりと地に足がついた人びとでした。あの奥深い顔をぜひ見てもらいたいと思います。その阿賀野川が汚染されたとき、それは自然を破壊するとともに、人間関係も地域社会もずたずたにしたのです。私たちは戦後、物質的な豊かさを追求してきました。その恩恵ははかりきれないものがあるでしょう。しかし、根本のところでは、私たちはなにかとても大事なものを失ってきたのではないのでしょうか。この映画を見ながら、これからの社会を考えて生きたいと思えます。



16:00
～17:30
(終了予定)

9/23
④

鐘樓のふたり (日本 42分)



DATA 42分/日本
脚本：吉田史史/第4回富士山・河口湖映画祭シナリオコンクールグランプリ作品
監督：五藤利弘/出演：佐久間麻由、佐藤貴広、モロ師岡/制作：富士山・河口湖映画祭実行委員会/制作協力：OneScene/プロデューサー：佐藤貴広、豊田 仁/協力プロデューサー：野野瀬/配給：有限会社ベストブレイク

STORY
倦怠期を迎えた若いカップルの葉緒と純平は、お互いに別れるつもりで想い出の河口湖畔に佇む鐘を目指す。途中「樹海に入ってみる」との葉緒の思いつきに「十歩だけだぞ」と純平。2人は樹海の中に入っていく…。

メインゲスト モロ師岡(俳優)

プロフィール
1959年2月20日生まれ 千葉県出身。
テレビ、映画で異彩を放つ傍ら、ひとりコント・古典落語を現代に置き換えたひとりライブを精力的に開催。大人の共感を得られる貴重な役者である。

受賞
1995年国立演芸芸術祭花形賞
1996年東京スポーツ映画大賞助演男優賞
北野武監督「キッズリターン」

今後の予定
大川典雄第37回公演「Lock'n'Roll」
～暗闇演劇第5ステージ 見えない芝居 音と気配の芝居～
作・演出/大川典雄
出演/大川典雄、寺田育の、玉置ピンチ!阿曾山火、鉄板龍太郎、三好宏明、Jonny、柴田GOZO、牛越秀人 他 モロ師岡(特別出演)
10月5日(金)～8日(月・祝) 下北沢 ザ・スズナリ
10月20日(土)・21日(日) 神戸アートビレッジセンター
10月27日(土)・28日(日) 愛知県芸術劇場小ホール
●MOROMOROOKA 2012 LIVE COME COME EVERYBODY!
11月16日(金)「ひとりと高座～秋祭り～」上野広小路亭 19時～



トークショー モロ師岡(俳優)、五藤利弘監督 司会：小林三四郎 (50分)

メッセージ from 五藤利弘監督

これは、第4回富士山・河口湖映画祭シナリオコンクールで237編の応募脚本の中から選ばれグランプリを受賞した吉田史史さんのオリジナル脚本を映像化した作品です。長岡の皆さんには馴染みがないように感じるかもしれませんが、長岡アジア映画祭でも常連の杉田倫宏監督作品「貝ノ耳」で主演を務めたシナリオセンター講師でもある坂井昌三さんから推薦を頂き、私、五藤が演出を担当させて頂くことになった経緯があります。坂井さんには、拙作短編「けさらんばさらん」にご出演も頂くなど懇意にして頂いています。

また、メインキャストの1人、モロ師岡さんは栃尾を舞台にした「モノクロームの少女」で少女の写真を謎を巡るのに重要な役で出演頂きました。そうした沢山の繋がりのおかげで形にさせて頂いた作品なのです。そういった繋がりや面白さ、不思議さを味わいながら観て頂く、何かを感じて頂けるのではないかと考えています。作品そのものが人の繋がりや大切さをテーマにしています。色んな想いを巡らせて観て頂きたい作品です。

自分自身思うこと
商業用も自主制作も含めて僕が映画を撮り始めてから25年目にして初めて他人の脚本を監督しました。他人様の思考を自分が映像化出来るのか、不安でもあり楽しみでもありました。そんな自分の中のスリルを楽しんだ作品でもあります。皆さんがどう感じて下さるか、とても興味があります。

モロ師岡さんのこと
初めて監督した劇場用長篇「モノクロームの少女」に出て頂いたモロ師岡さんに、今回、初めて他人様の脚本を演出する作品に出演頂くことになったことは不思議です。役に対して真摯に向き合うその姿勢から勉強させて頂いています。映画青年を気取っていた若かりし頃から憧れの役者さんで、一緒にさせて頂いているだけで夢のようです。拙い演出を何倍にも膨らませて演じて下さいます。

トークショー 司会 小林三四郎 (太秦株式会社代表、俳優)

柏崎出身。1981年 劇団秘宝零番館入団。舞台、映画、テレビ、ラジオと多方面で活躍。映画出演作に「ポストマンブルース」「闇を渡る」「ナレーション」「ただ、君を愛してる」「黄金花」「キャタビラー」等。長岡アジア映画祭、函館イルミネーション映画祭の司会も務める。太秦配給作品には、「台湾人生」「黄金花」「クロッシング」など。



17:50
～20:30
(終了予定)

9/23
⑤

カンタ！ティモール (日本 110分)



DATA 110分/ドキュメンタリー/カラー/ステレオ/NTSC/プロデューサー：小向 定(こむかい さだむ) /監督：広田奈津子(シナリオ・編集・ナレーター) /助監督・音楽監督：小向 定 /監修：中川 敬(Soul Flower Union) /監修：南島風彦(報道写真記者)

「カンタ！(歌え)ティモール」は、東南アジア、東ティモールを舞台に、大地との絆を描くドキュメンタリー。狂気の如き殺りくで24年間で人口の3分の1を失った東ティモール。消えない悲しみを抱きながら、許す選択をした人々の姿が、美しい音楽とともに観られる。日本が深く関わりながら、ほとんど報道されなかった東ティモール問題を取り上げた、国内初の作品。獄中から東ティモール独立を率いた初代大統領の貴重なインタビューが含まれる。文字を持たない口承文化特有の、詩のようにつむがれる言葉の数々が、胸に残って離れない。

STORY
東ティモールで耳にした青年の歌が、帰国後も耳に残って離れない。青年を探すために島へ戻り、一つの旅が始まった…。その歌は、「ねえ仲間たち。ねえ大人たち。僕らのあやまちを、大地は知ってるよ」で始まる。直接的な言葉を使えば命にまで危険が及ぶ。インドネシアの軍事統制下で、ひっそりと歌われた歌だった。島の奥に広がるのは、精霊たちと共に暮らすと、太陽に照らされた、はじけるような笑顔の人々。その一方で、人口の3分の1を奪ったインドネシア軍の攻撃が濃い影を落とす。報道にのらない地下資源ビジネスと、日本政府の驚くべき行動。「悲しい。いつまでも悲しみは消えない。でもそれは怒りじゃない。」「日本、ティモール、インドネシア。みな同じ。母一人、父一人。大地の子ども。叩いちゃいけない。怒っちゃいけない。」「弾丸が飛びかう中、人々は命をかけるように助け合い、大地への感謝を歌と踊りに表し続けた…。

トークショー&ライブ 広田奈津子監督、小向サダム(50分)



ながおか映画祭を応援しています。

有限会社アルトアソシエイツ

ビアレストラン・バーデン・バーデン・ホーフ
BADEN-BADEN Hof
長岡市吉正寺字新田579 0258-20-5322
■営業時間(年中無休)
平日11:00～15:00 17:00～24:00
土・日・祭日11:00～24:00



本・雑誌、捨てる前にまず
TEL (0258) 37-3512
ざっほんどう 長岡市東坂之上町2丁目3-3
雑本堂古書店 CD、DVD、映画パンフ、チラシ高価買取

文信堂書店 長岡駅CoCoLo内
TEL 0258 36-1360

はり・灸 藤田芳雄 午前8:30～12:30 午後2:00～6:00
喜多町鍼灸院 休診 日曜・祝祭日・土曜午後
長岡市喜多町962-4 TEL0258-28-2101

よりよいオフィスシステムにしませんか
玉源株式会社 長岡市新産2-7-2
TEL: 0258-46-9339
FAX: 0258-46-9341

Roman d'amour 音楽製作ロマンダムール
長岡アジア映画祭テーマソング作詞・作曲——
結婚式、各種イベント
音楽製作、実演、承ります。
090-4818-5778 神保幸弘
romandam@io.ocn.ne.jp

株式会社旗野住研 Hatano
阿賀野市保田3270-1 ☎0250 (68) 5123(代)

ほら、冷やしておいたよ。
※お近くのスーパー、小売店でお求めください。
むぎ茶
いろは商店
TEL0258(32)1333

小麦の芸術 La Bonton
長岡市今朝白3-4-4 Phone・Fax0258(32)0222
http://www.bonton.jp/
「創る喜び、信頼の品質」
ISO 9001 認定企業
株式会社山崎組
本社 長岡市殿町1-5-6 (代表)35-7131